

新アリーナの建設に向けた要望について

令和6年5月31日

岡山市長

大森 雅夫 様

岡山県経済団体連絡協議会

座長 中島 基善

岡山商工会議所

会頭 松田 久

岡山市の更なる賑わい創出に向けて

我々はこれまで地元プロスポーツチームの一層の活躍に向けた支援のため、公設民営による新アリーナ建設を提言してきた。令和5年9月には「ハレノワ」がグランドオープンし、シンフォニーホールとともに芸術文化の発信と賑わいづくりの拠点整備された。こうした芸術文化施設とともにスポーツやエンターテイメント系のイベントなどの新たな拠点整備により、将来を担う若者達が郷土岡山に愛着を持ち自然に定住が進む環境を整備する必要があると信じる。これは県都であり政令指定都市である岡山市の都市機能を高め、都市間競争の優位性を確立することにつながる。地域の産官学金言のノウハウを結集し、DX・GX など多くの機能や自由度の高い運営を想定した新アリーナの整備が必要不可欠と判断する。何卒ご理解をいただき推進をお願い申し上げたい。

運営を想定したアリーナ規模の検討

令和5年度に岡山市が実施した「多目的屋内施設（アリーナ）整備に関する基本計画」では、VリーグやBリーグがレギュレーションとして掲げる席数5,000席以上のメインアリーナのほか、サブアリーナやVIPルーム・ラウンジなどを備える新アリーナ像が示され、年間の運営費用が2億円と試算された。

我々としては、「公設民営（独立採算）」の前提に立ち、収益性を高める観点から、以下の項目について岡山市とともに検討を進めたい。

- ①長期的・安定的収入を確保するため、プレミアム席収入、ネーミングライツ、広告収入、営業収入などを高める。
- ②スポーツ以外のエンターテイメント性の高い音楽イベントなどの多目的活用による、多様な収益機会の確保。
- ③将来の通信インフラの飛躍的向上を想定しつつ、スポーツの科学的分析の機器導入、エンターテイメントの同時配信など時代を見据えたサービスに向けて、施設管理者と運営者の適切な役割分担のもと、DXの最新機器を設置、維持更新する仕組みの検討。

なお、維持管理費などの増額には繋がるものの、より一層の興行誘致を可能とするためには基本計画以上の席数を想定する必要もあると考えている。

岡山市とともに適正なアリーナ規模等について検証を行っていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

建設イニシャルに向けた取組みについて

令和3年12月及び令和4年12月の岡山市への提言において、新アリーナは「公設」としつつ、民間からの資金を提供する案を盛り込んだところである。

我々としては、アリーナの適正規模の議論もこれあり、更にアリーナの有用性や可能性を県内外の企業にアピールすることで参画意欲を喚起し、岡山市とも協力し「企業版ふるさと納税の活用」や「寄附金の募集」を通じ、民間からの提供資金の増額等に向けた積極的な働きかけを行っていく。